

図5-2(G) コミュニケーション (理解) : 体重 (kg)

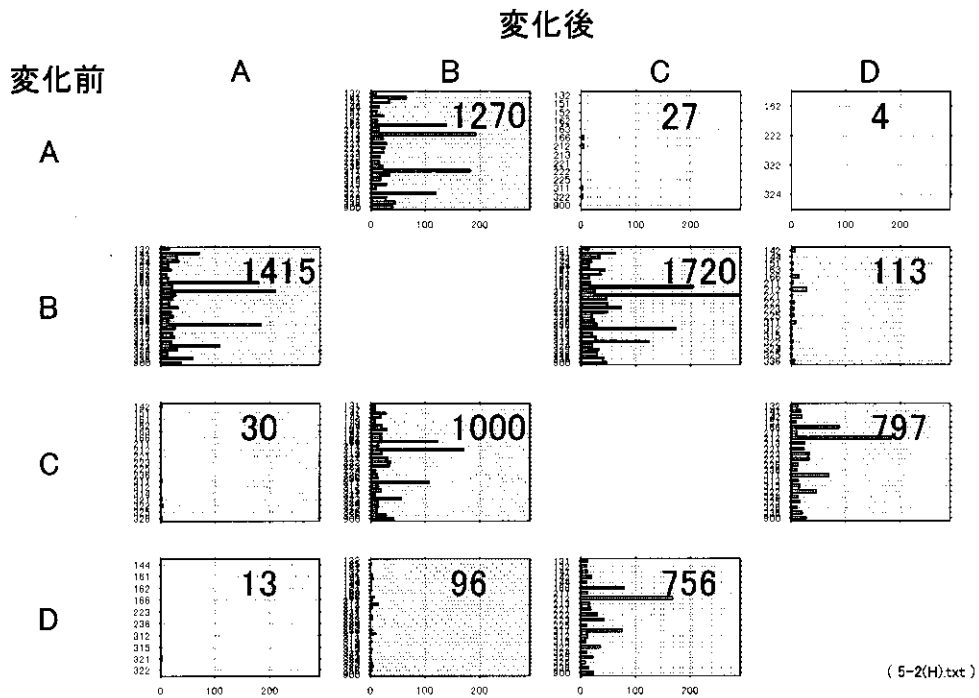


図5-2(H) コミュニケーション (理解) : 主要病因

5. 3. コミュニケーション（表現）

◆旧版

1	表現手段がない
2	意味の分からない声や、意味の分からない身ぶりで表現する
3	単語や意図した身ぶりで表現する
4	二語文で表現する
5	文章で表現する

◆改訂版

1	意思表示が全くないようだ
2	意味は分からないが声や身ぶりで表現する
3	意図した身ぶりやサインで表現する
4	単語で表現する
5	二語文で表現する
6	文章で表現する

■ 旧版・改訂版を統合 ■

	旧版	改訂版
A	1	1
B	2	2
C	3	3, 4
D	4	3
E	5	4

<図 5-3 (A)～(H)>

全体：対象症例数 9289 名の中で不変群 4874 名を除いた、4415 名（47.5%）に変化がみられた。改善は 4312 回，増悪は 3418 回発生し，改善は増悪に比べて多かった（改善/増悪：26.2%）。また，改善と増悪の和（7730 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.75 回発生したということになる。改善が多くみられた水準は，A 群→B 群（1985 回，改善回数の 46.0%），B 群→D 群（1465 回，34.0%）であった。一方，増悪に関しては，B 群→A 群（1501 回，増悪回数の 43.9%），C 群→B 群（1083 回，31.7%）の変化が多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 4076 回みられ，改善が 2290 回（56.2%），増悪 1786 回（43.8%）であった。女性では何らかの変化が 3654 回みられ，改善が 2022 回（55.3%），増悪 1632 回（44.7%）であった。両者に差を認めなかった。

年齢：年齢との関連では 25 歳前後にピークを示す，ほぼ正規分布に近い分布を両群とも示しており，

入所期間：入所期間（移行をするまでの期間）については入所 5 年までに多い数を示し，その後は徐々に減少傾向をここでも示していた。

大島の分類：大島の分類との関連では改善群，増悪群とも大島の分類 1・2・5・10・17 にその数が多い傾向を共通して認めた。

身長，体重：身長や体重に改善群，増悪群との間には顕著な差を認めていない。

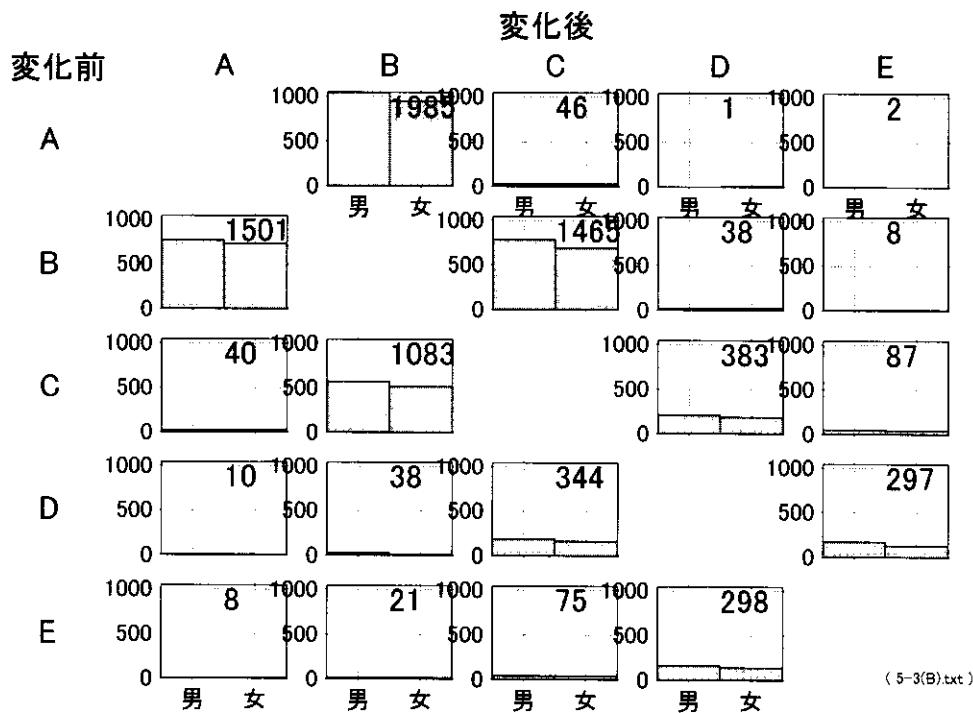
	変化後 A	B	C	D	E
変化前 A	599 名	1985 回	46 回	1 回	2 回
B	1501 回	2633 名	1465 回	38 回	8 回
C	40 回	1083 回	1007 名	383 回	87 回
D	10 回	38 回	344 回	160 名	297 回
E	8 回	21 回	75 回	298 回	475 名

対象症例数 = 9289 名
 不変症例数 = 4874 名
 変化症例数 = 4415 名

改善変化回数 = 4312 回
 増悪変化回数 = 3418 回

(5-3(A).txt)

図 5-3(A) コミュニケーション (表現) : 全体



(5-3(B).txt)

図 5-3(B) コミュニケーション (表現) : 性別

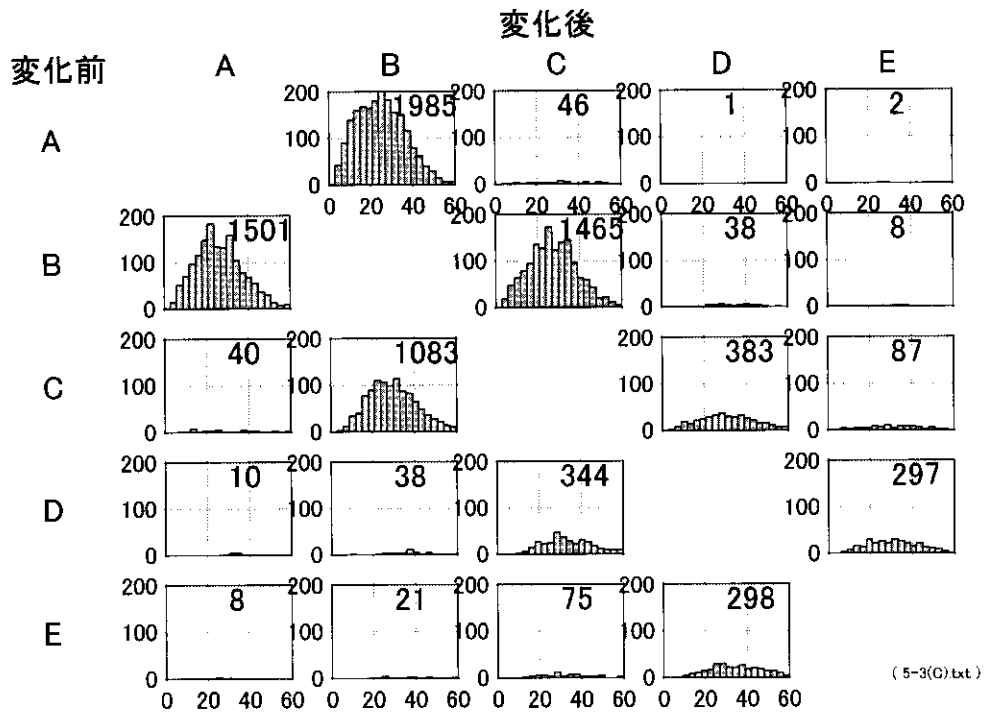


図5-3(C) コミュニケーション (表現) : 年齢 (歳)

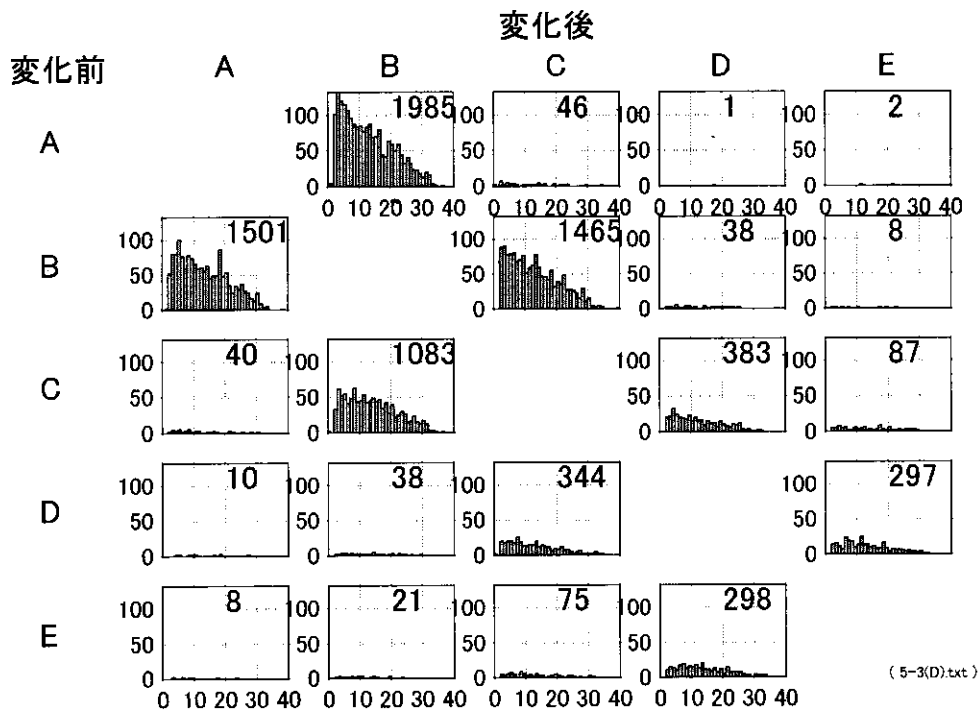


図5-3(D) コミュニケーション (表現) : 変化発生までの入所期間 (年)

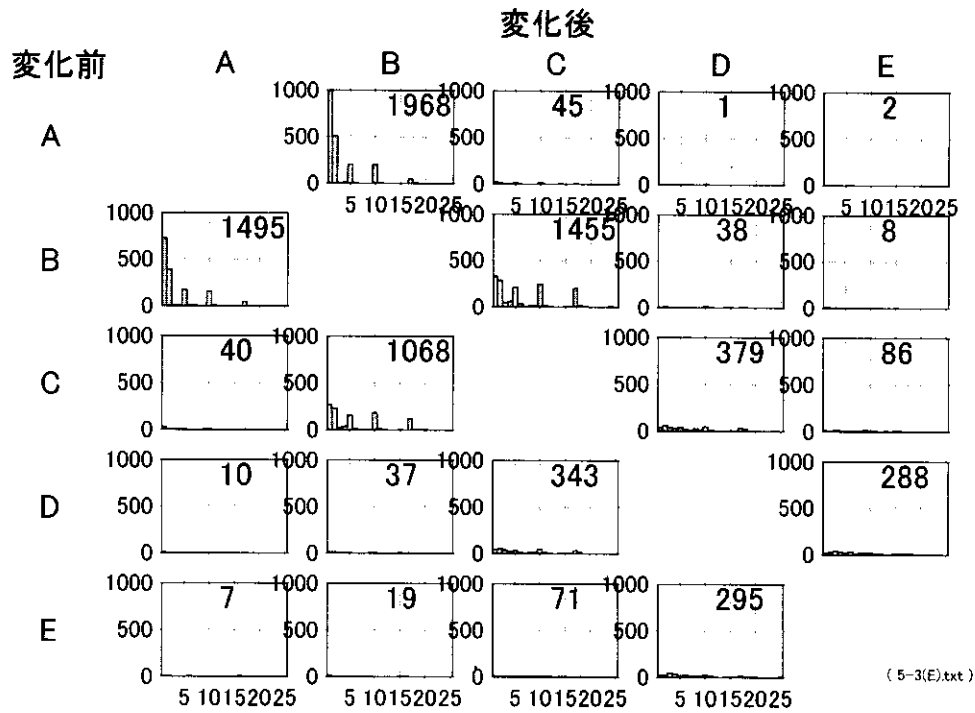


図 5-3(E) コミュニケーション (表現) : 大島の分類

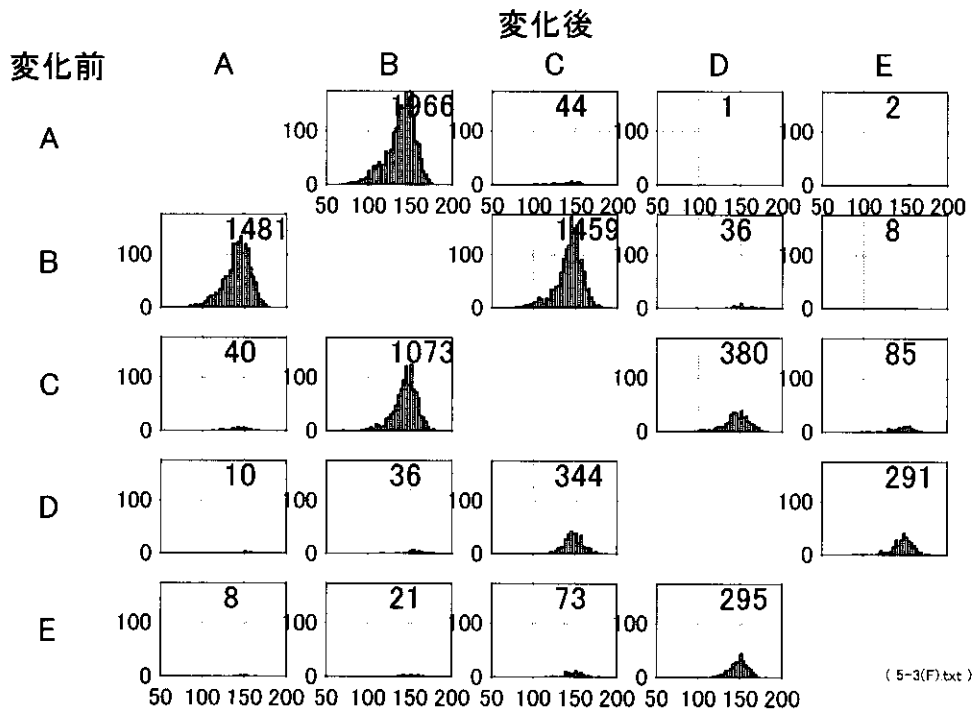


図 5-3(F) コミュニケーション (表現) : 身長 (cm)

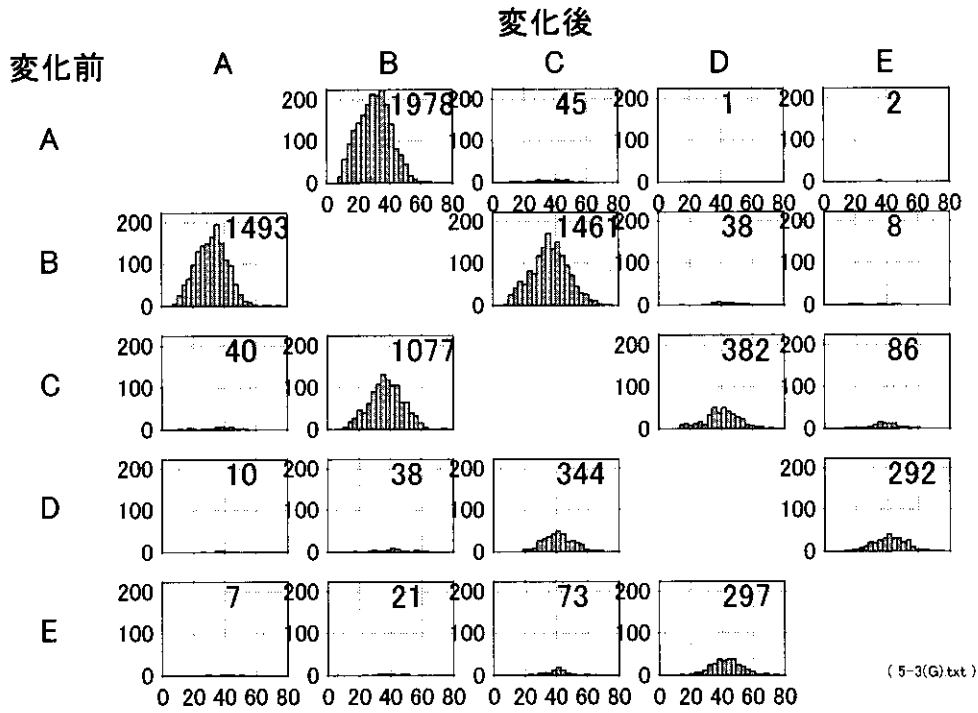


図 5-3(G) コミュニケーション (表現) : 体重 (kg)

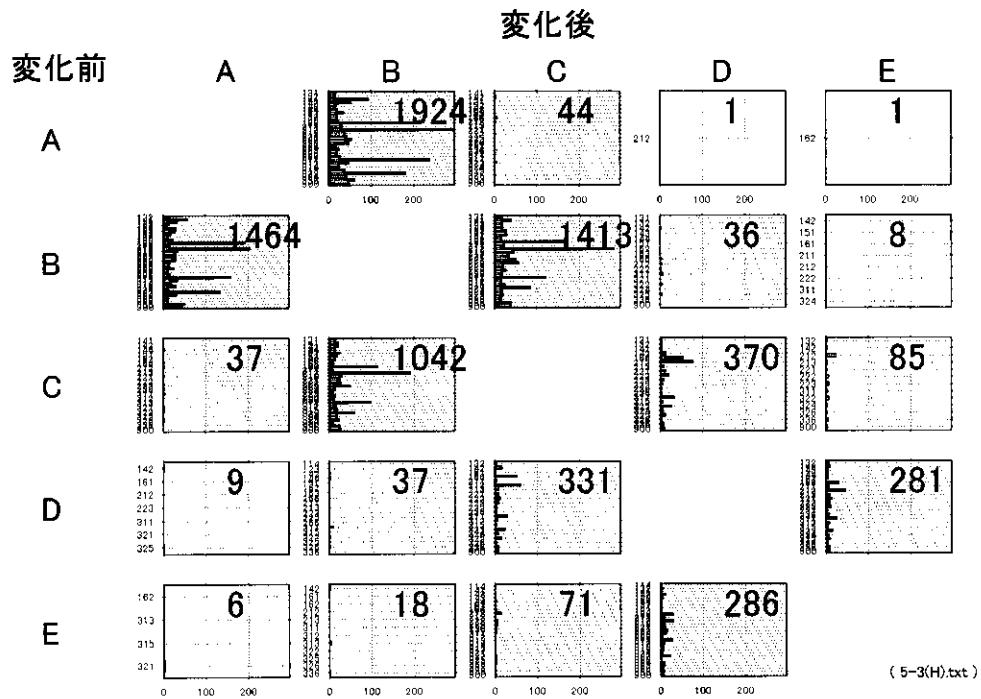


図 5-3(H) コミュニケーション (表現) : 主要病因

6. 問題行動（異常習慣）

6. 1. 指しゃぶり・髪抜き・耳いじり等

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-1 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8582 名の中で不変群 6264 名を除いた、2318 名（27.0%）に変化がみられた。改善は 1721 回，増悪は 1749 回発生し，改善と増悪は同等であった（改善/増悪：-1.6%）。また，改善と増悪の和（3470 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.50 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（777 回，改善回数の 45.1%）であった。一方，増悪に関しては，3 群→2 群（888 回，増悪回数の 50.8%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1789 回みられ，改善が 891 回（49.8%），増悪 898 回（50.2%）であった。女性では何らかの変化が 1681 回みられ，改善が 830 回（49.4%），増悪 851 回（50.6%）であった。男女間で顕著な差は認めない。

入所期間：改善及び増悪が生じた年齢及び入所期間の分布をみると，両者に大きな差は認められない。

年齢，大島の分類や身長，体重との関係についても同様である。

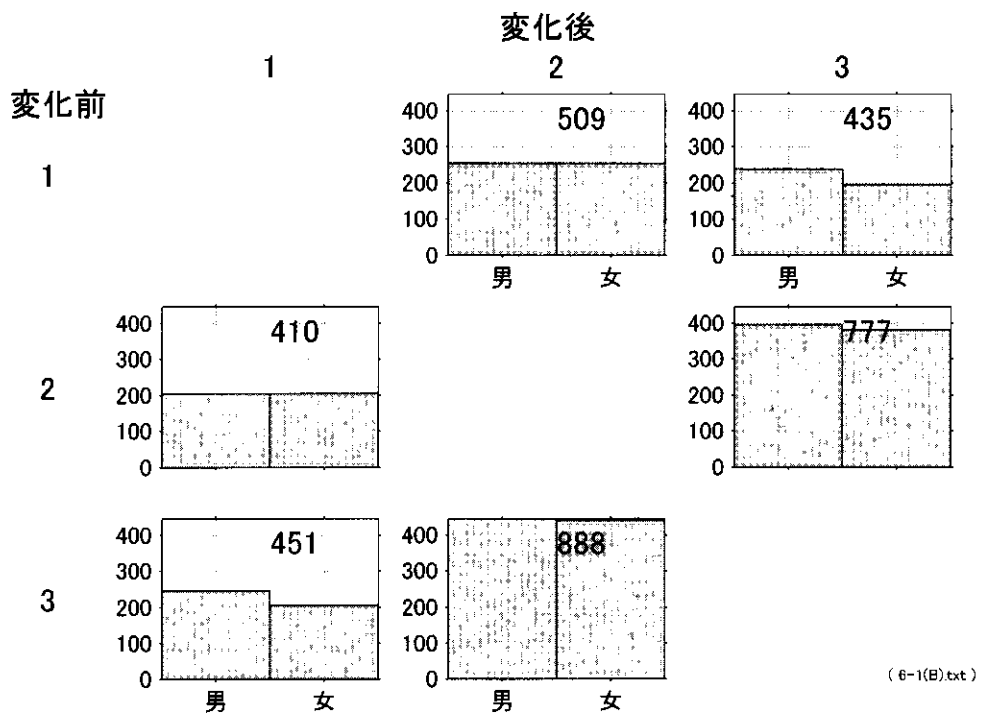
	変化後 1	2	3
変化前 1	700 名	509 回	435 回
2	410 回	241 名	777 回
3	451 回	888 回	5323 名

対象症例数 = 8582 名
 不変症例数 = 6264 名
 変化症例数 = 2318 名

改善変化回数 = 1721 回
 増悪変化回数 = 1749 回

(6-1(A).txt)

図 6-1(A) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：全体



(6-1(B).txt)

図 6-1(B) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：性別

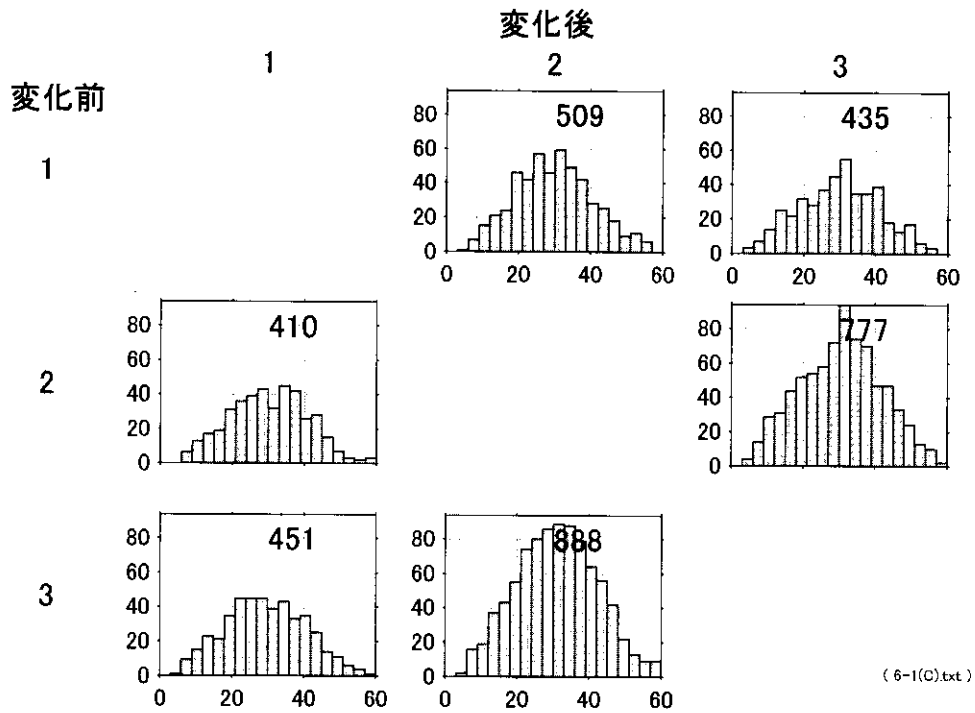


図 6-1(C) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：年齢 (歳)

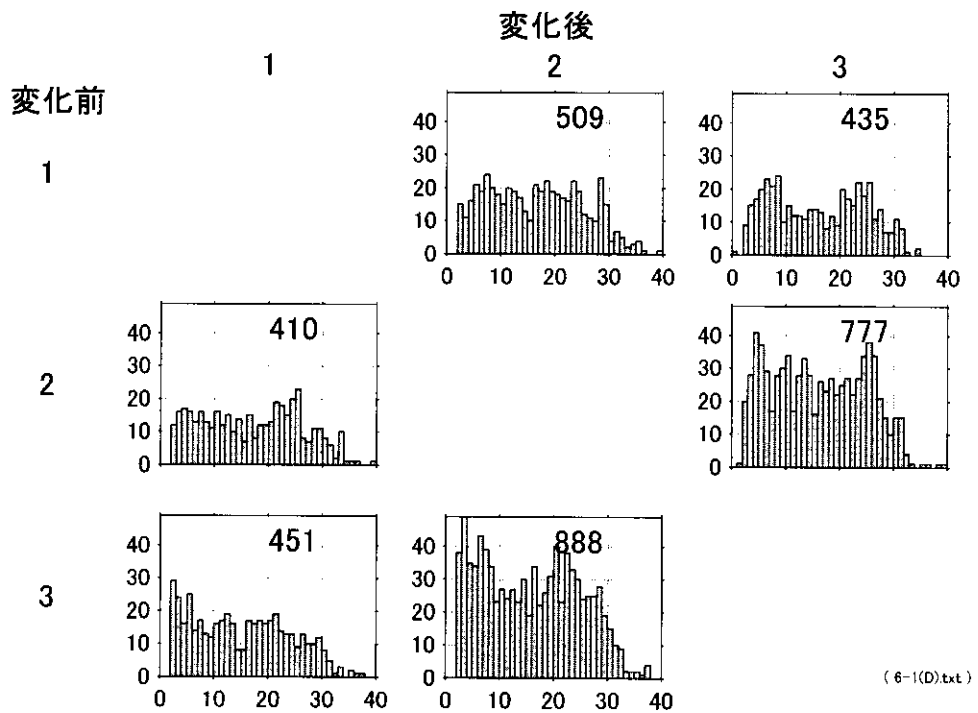


図 6-1(D) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：変化発生までの入所期間 (年)

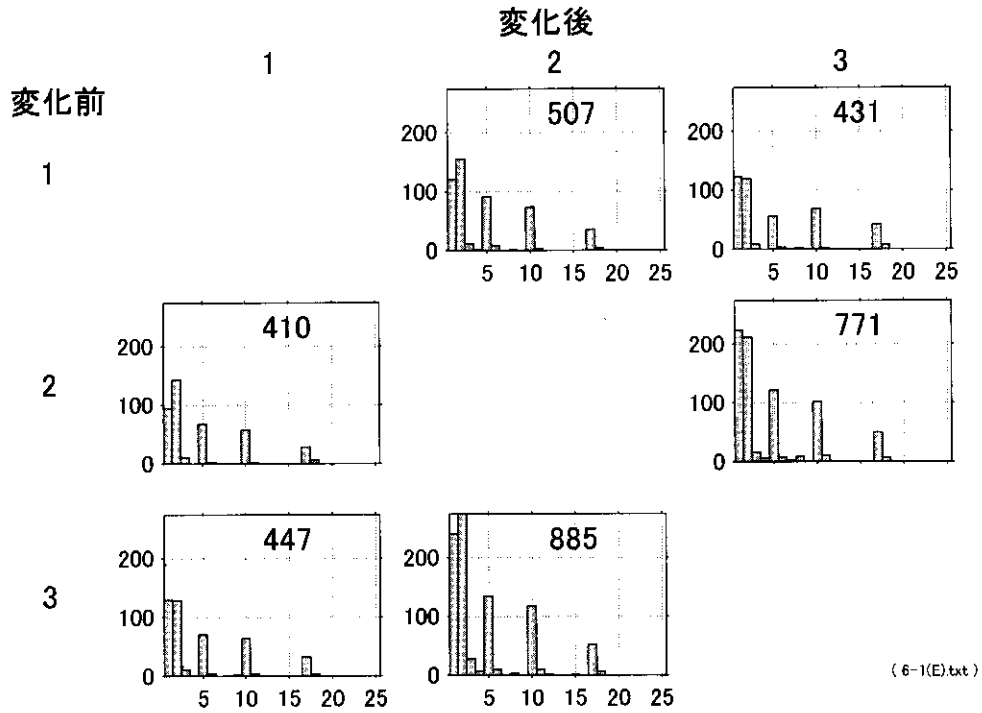


図6-1(E) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：大島の分類

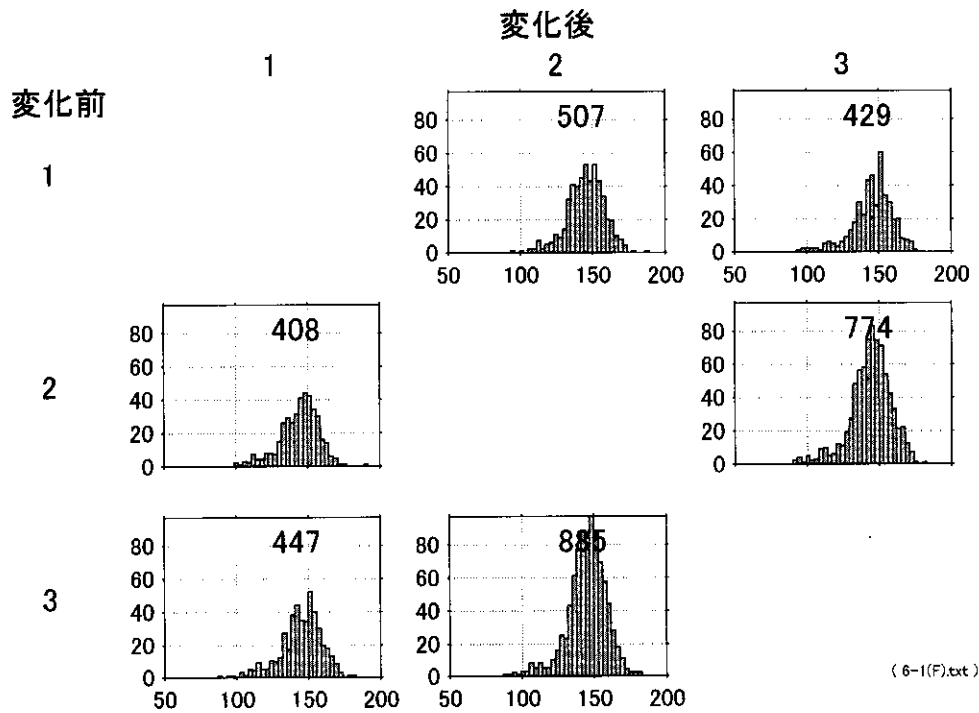


図6-1(F) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：身長 (cm)

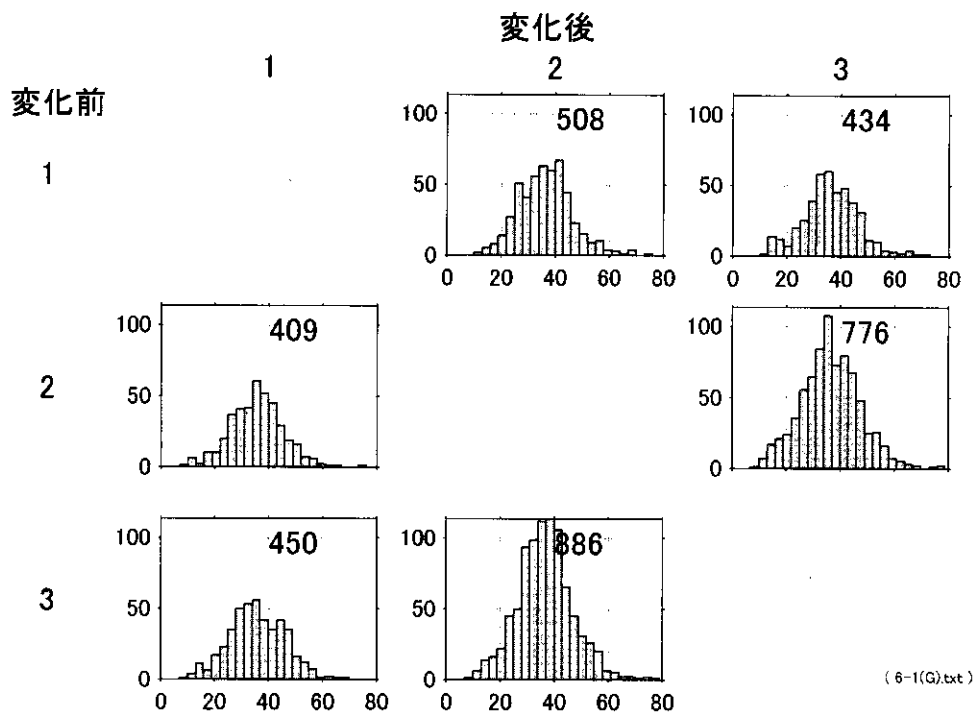


図6-1(G) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：体重 (kg)

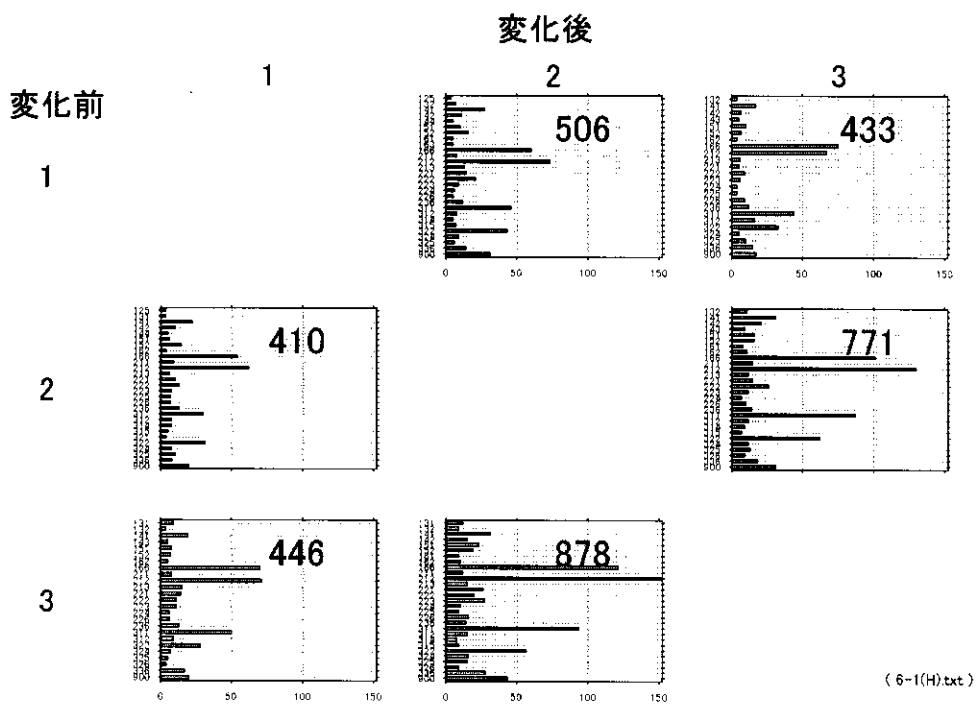


図6-1(H) 指しゃぶり・髪抜き・耳いじりなど：主要病因

6. 2. オナニー

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-2 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8584 名の中で不変群 7244 名を除いた，1340 名（15.6%）に変化がみられた。改善は 1062 回，増悪は 960 回発生し，改善は増悪に比べて多かった（改善/増悪：10.6%）。また，改善と増悪の和（2022 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.51 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（742 回，改善回数の 69.9%）であった。一方，増悪に関しては，3 群→2 群（724 回，増悪回数の 75.4%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1415 回みられ，改善が 748 回（52.9%），増悪 667 回（47.1%）であった。女性では何らかの変化が 607 回みられ，改善が 314 回（51.7%），増悪 293 回（48.3%）であった。男女間で顕著な差は認めていない。

入所期間：改善群，増悪群それぞれの変化がおきた年齢及び入所期間では顕著の差を認めなかった。

年齢，大島の分類，身長，体重との関係でも同様であった。

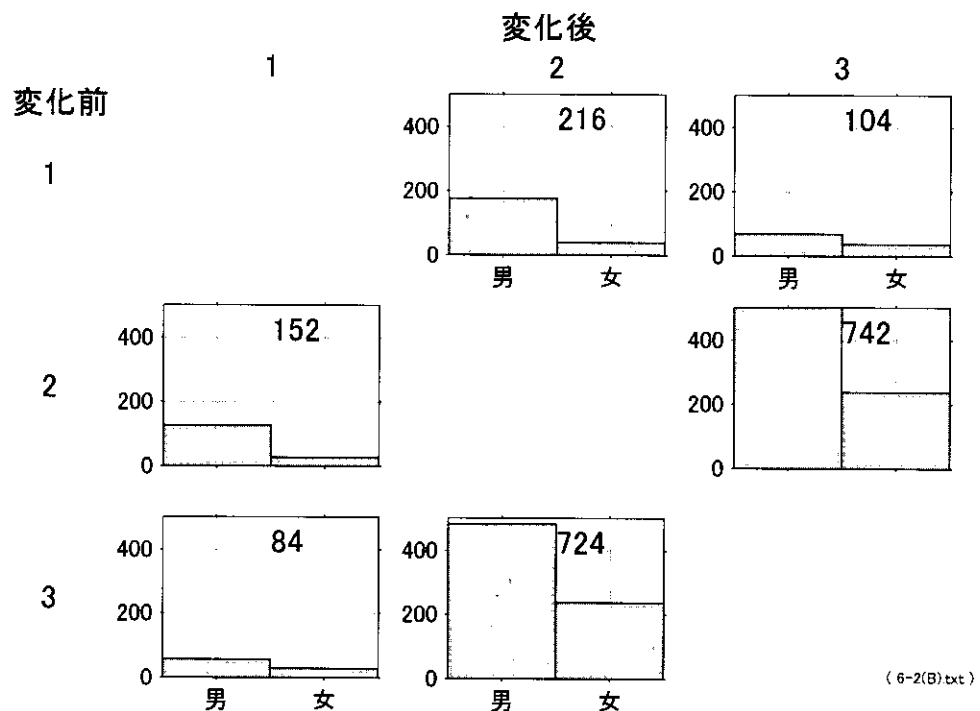
	変化後 1	2	3
変化前 1	57 名	216 回	104 回
2	152 回	203 名	742 回
3	84 回	724 回	6984 名

対象症例数 = 8584 名
 不変症例数 = 7244 名
 変化症例数 = 1340 名

改善変化回数 = 1062 回
 増悪変化回数 = 960 回

(6-2(A).txt)

図 6-2(A) オナニー：全体



(6-2(B).txt)

図 6-2(B) オナニー：性別

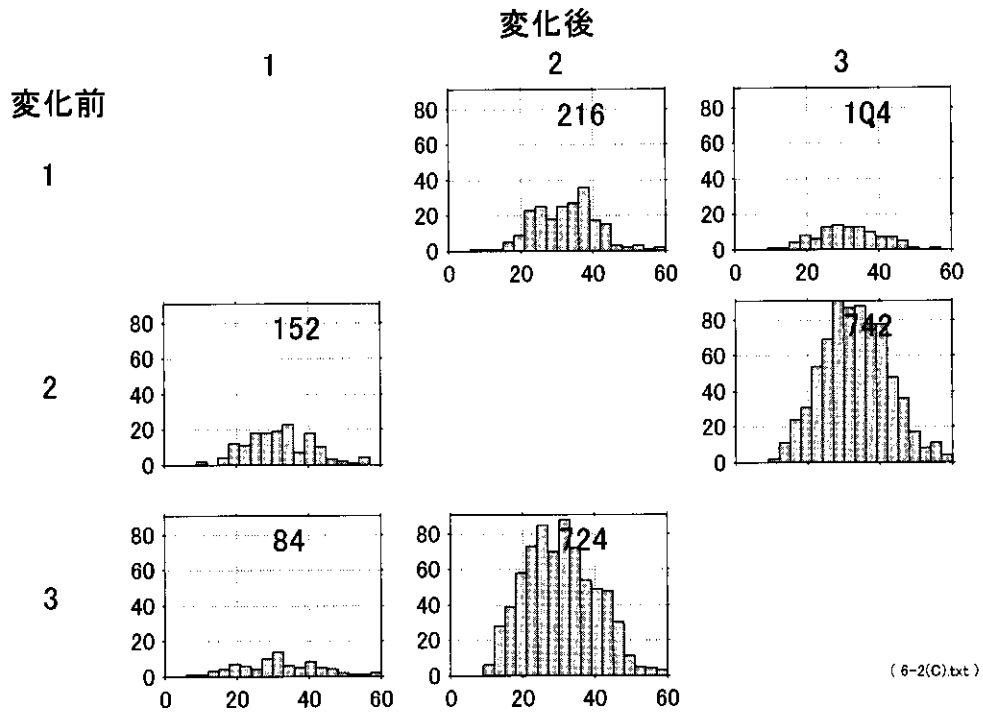


図 6 - 2(C) オナニー：年齢 (歳)

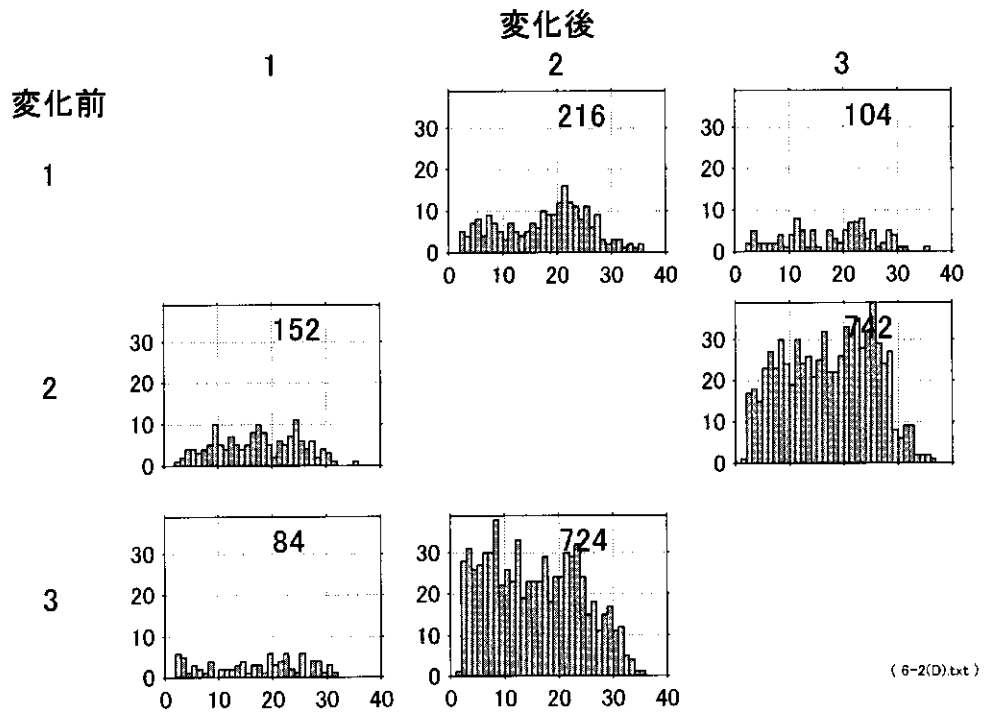


図 6 - 2(D) オナニー：変化発生までの入所期間 (年)

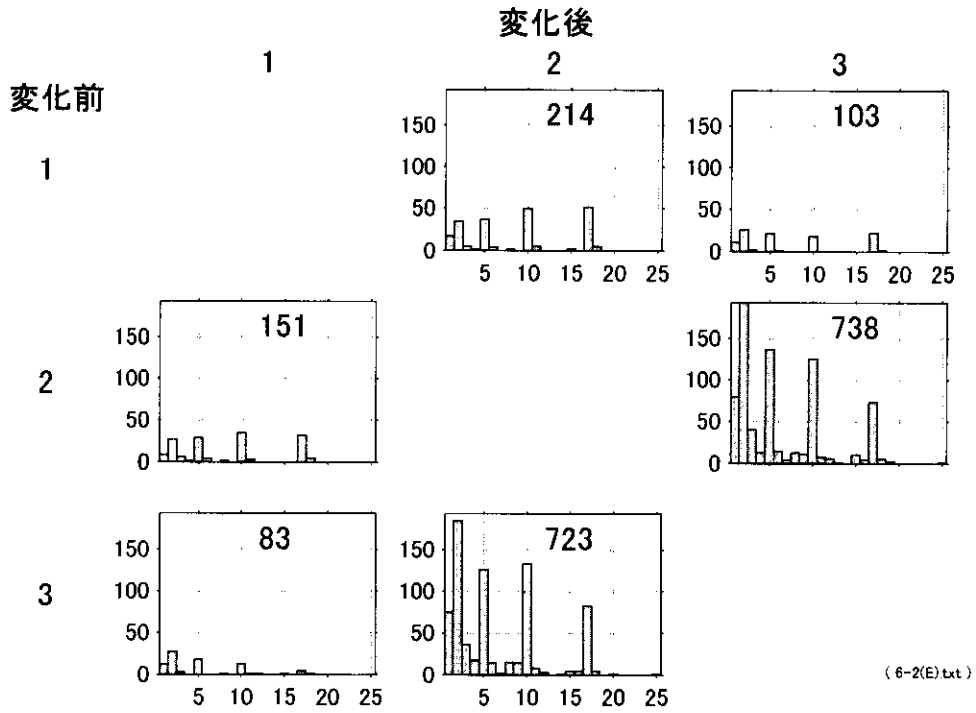


図 6 - 2(E) オナニー：大島の分類

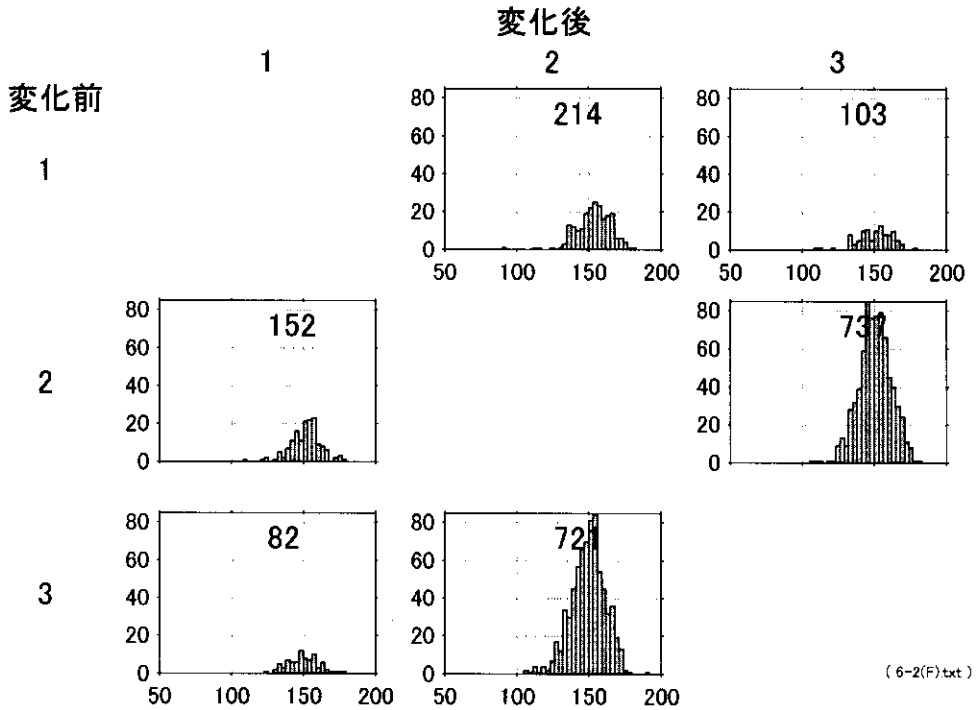


図 6 - 2(F) オナニー：身長 (cm)

6. 3. 自傷

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-3 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8586 名の中で不変群 6780 名を除いた，1806 名 (21.0%) に変化がみられた。改善は 1357 回，増悪は 1348 回発生し，改善と増悪は同等であった (改善/増悪：0.7%)。また，改善と増悪の和 (2705 回) を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.50 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群 (863 回，改善回数の 63.6%) であった。一方，増悪に関しては，3 群→2 群 (943 回，増悪回数の 70.0%) の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1466 回みられ，改善が 725 回 (49.5%)，増悪 741 回 (50.5%) であった。女性では何らかの変化が 1239 回みられ，改善が 632 回 (51.0%)，増悪 607 回 (49.0%) であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群と増悪群について，年齢，入所期間，大島の分類，身長，体重との間に両方で違いは認めていない。

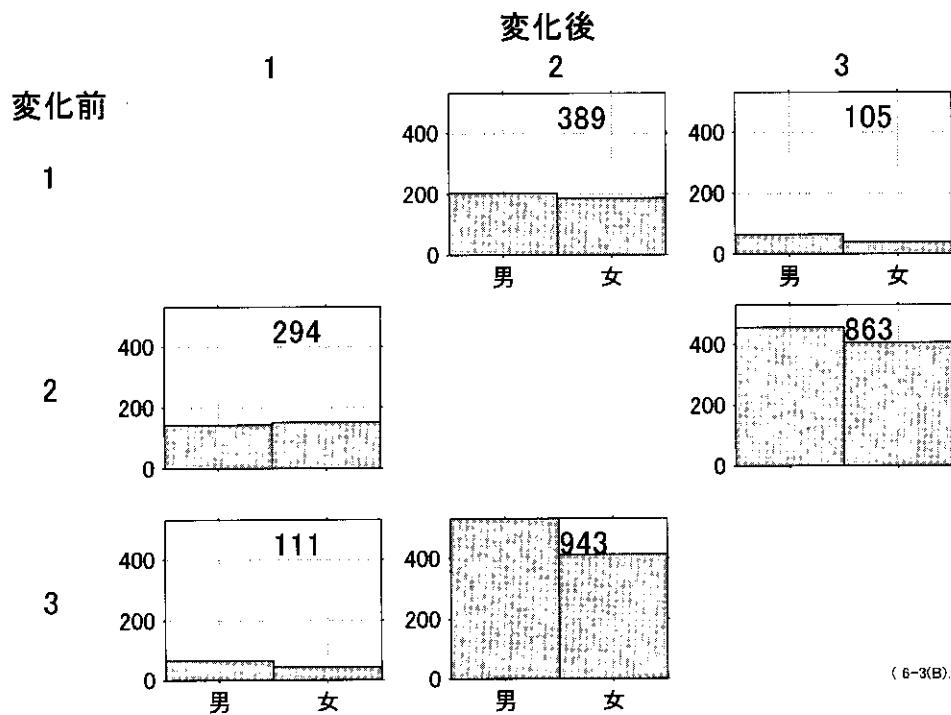
	変化後 1	2	3
変化前 1	122 名	389 回	105 回
2	294 回	422 名	863 回
3	111 回	943 回	6236 名

対象症例数 = 8586 名
 不変症例数 = 6780 名
 変化症例数 = 1806 名

改善変化回数 = 1357 回
 増悪変化回数 = 1348 回

(6-3(A).txt)

図 6-3(A) 自傷：全体



(6-3(B).txt)

図 6-3(B) 自傷：性別

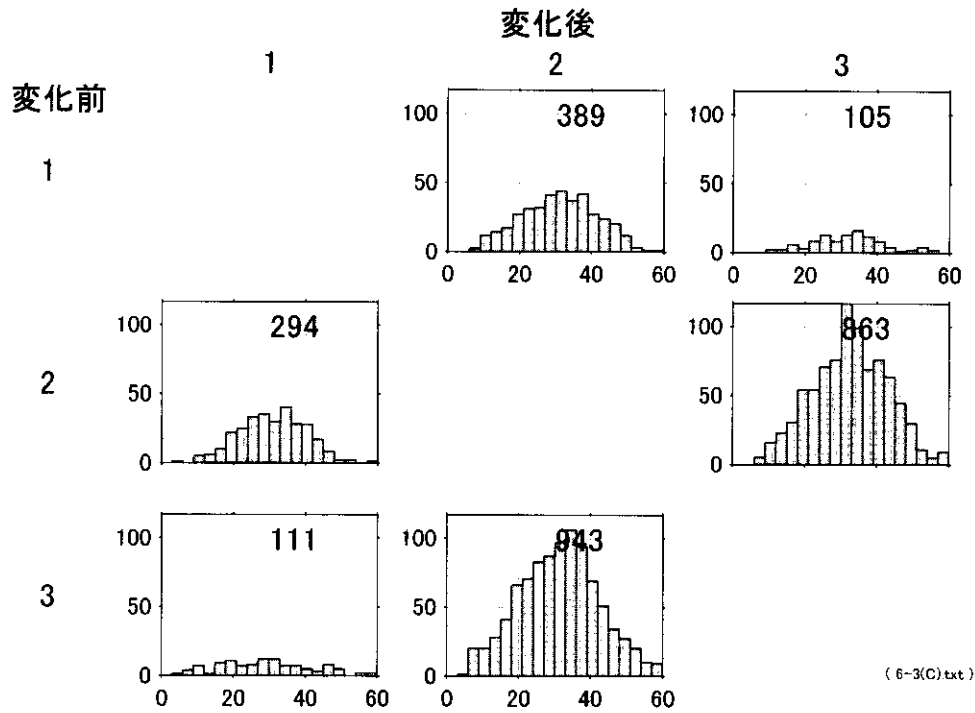


図 6 - 3(C) 自傷：年齢（歳）

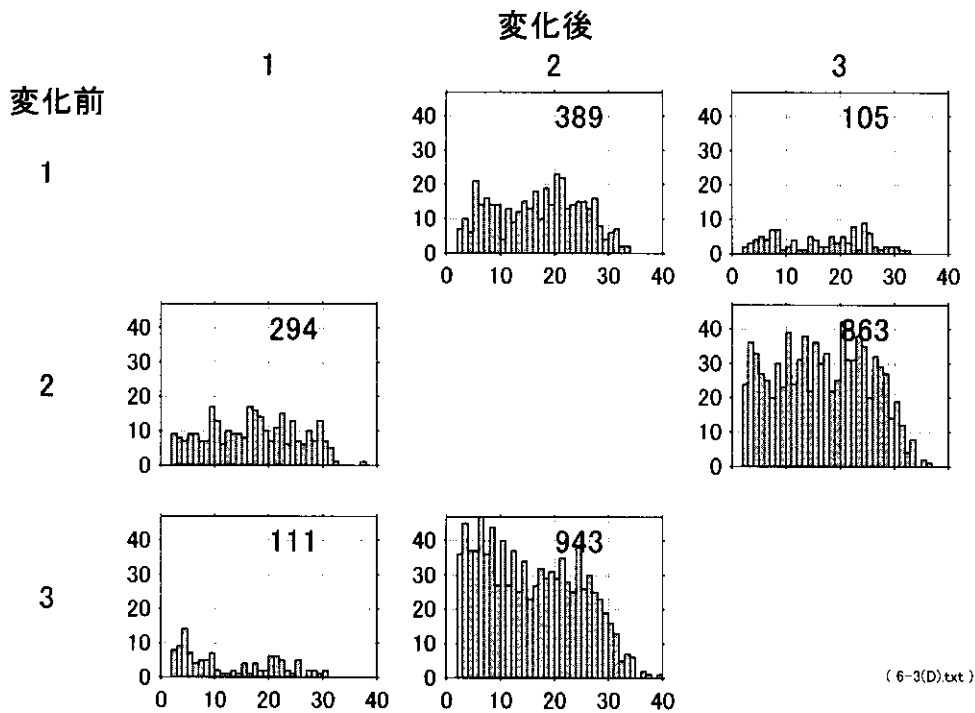


図 6 - 3(D) 自傷：変化発生までの入所期間（年）